

# 現地レポート／ 泉田賢一（高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻）

派遣先: ウィスコンシン、米国

海外派遣先機関名: ウィスコンシン、米国

派遣期間: 2006年8月25日～2006年11月24日

2006年11月15日 報告分

## 授業・研究の進捗状況

ウィスコンシン大学のPtric Huber氏と共に、超長基線ニュートリノ振動実験を行った時に素粒子標準模型を超える物理効果を発見できるかどうかの可能性を理論的に検証しています。

現在、ニュートリノ振動実験の計算プログラムパッケージを利用しながら計算を行っている最中です。

## 生活関連状況

滞在先のマディソンは、アメリカでも有数の学生街であり、数年前に雑誌で「アメリカで住みやすい街No.1」に選ばれていた事もあり、非常に快適に生活できています。物価も日本と比較してもほぼ同様であり、日本と変わらない金銭感覚で生活ができます。また、マディソン自体は近年ハロウィンの仮装で有名な町で10月末位からハロウィンまでは、構内のカフェテリアがハロウィン一色に染まるなどの盛り上がりを見せていました。（残念ながらカメラを所有していないので、写真はありません。）ただし、気候は北海道並の気温で、9月上旬の時点でも、関東圏の10月後半位の寒さになってしまいます。雪も10月上旬の時点で1回、11月上旬にも1回降っていて、北国出身でない私にはそこが少し大変でした。

ウィスコンシン大学マディソン校は湖の畔にキャンパスがあり、景色が非常に良い所です。大学自体もかなりの規模の大学で、農学部製の牛乳やアイスクリームなどを売っていたり、大規模のアメフトのチームがあったりします。特にアメフトは大人気で、ホームゲームともなると町中大騒ぎといった感じで街にも非常に密着した大学となっています。

また、学生も多種多様でアジア系の人間も沢山街や構内を歩いています。

## その他報告すべき事項

持ち込んだノートPCのACアダプタと電源コネクタの調子が悪くなり、長期間に渡ってノートPCの使用に支障をきたしました。幸い持ち込んだノートPCがDELL社の製品で、海外サポートが充実していた為に修理は可能でしたが、修理が完了するまでの長い期間ノートPCの使用が非常に制限され、研究やこのレポートの作成に大きな支障を生じました。